

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	部会で取り組んだこと	見えてきたこと	下半期の方針	豊岡市への提言
しごと部会	・働き手が必要な企業が多くあるにも関わらず、障害者雇用の募集は少ない。	・企業に『障害のある方のできること』『障害のある方の作業に取り組んでいる姿』を知ってもらい、障害者への理解を深めていただき、障害者雇用の拡大につなげる。	○障害者雇用の啓発動画を活用 ・6月28日(水)に行われた商工会の労災・雇用保険組合（各市商工会、水産加工組合など20団体）の会合の中で啓発動画を上映し、研修会での活用を呼びかけてもらった。 ・啓発動画貸出しを周知するポスターを作成し、豊岡ハローワーク内に掲示してもらった。	○企業が障害者雇用検討するにあたって『何をハードルとして感じるか？』『何があれば障害者雇用を考えるか？』などの感想をもとに、啓発動画のブラッシュアップが必要	○啓発動画貸出し時に、障害者雇用に対するアンケート(感想)を渡し、ブラッシュアップに役立てる。 ○但馬まるごと感動市、たじまびっくりばこを啓発動画上映機会の候補とする。	
		・障害者雇用に取り組んでいる企業を紹介し障害者の就労に関する理解や企業の取り組みを伝える。	○障害者雇用に取り組んでいる企業を市広報に紹介 ・紹介企業（株）東豊精工 ・豊岡市広報（平成30年2月号）掲載に向け、日程調整やインタビュー内容の検討を行った。		○豊岡市広報掲載後に、豊岡市やハローワーク等から反響の聴き取りを行いながら、当活動の評価及び振り返りを行う。	
	・就労系障害福祉サービスの制度が当事者やその家族に正しく伝わっていないなかつたり、知られていなかつたりする。	・就労系障害福祉サービスの内容について当事者やその家族に知っていただく。	○豊岡市広報を利用して就労系障害福祉サービスの周知 ・市広報掲載記事の内容を検討し、市へ依頼をかける。 ・市広報（平成29年9月号）に掲載される。 ※添付資料①		○豊岡市や相談支援事業所から反響の聴き取りを行い、当活動の評価及び振り返りを行う。	
	・豊岡市内の就労移行支援事業所の数が減少している。	・就労移行支援事業所がその専門性を発揮できる環境が整い、一般企業への就労を希望される障害者が就労に向けた専門性の高い支援を受けることができる。 ・就労系障害福祉サービス事業所職員の支援スキルを高めることを目的とした勉強会が開催される。	○就労移行支援事業所の減少における課題や情報共有 ・但馬圏域内の障害者就労に関する会議内容の共有（就労支援連絡会議、就労支援ネットワーク会議） ・部会委員それぞれの立場からの意見交換 (主な意見) ・就労移行支援事業所が来年度は2事業所のみ(内、1事業所が現在休止中で、来年度も休止状態の継続が予想される) ・就労移行支援事業を利用するにあたっては、サービスに繋ぐ支援者等の制度への理解や支援スキル、サービス提供側の支援スキルが必要である。 ・就労をめざす障害者の就労準備性を向上させる機能や職場開拓等の機能を持つ就労移行支援事業所は必要である。 ・就労アセスメントを行えるのは、就労移行支援事業所のみであるため豊岡市において、来年度以降、就労アセスメントのニーズを充足できなくなることが危惧される。 ・就労アセスメントを一度受け終わりではなく、再評価が行えることも重要 ・就労継続支援A型・B型でも就労をめざした支援が行われており、時間をかけて就労準備性を高める必要があるケースにおいては就労移行支援事業を利用しないという選択がなされる場合もある。 ・就労継続支援A型・B型事業所職員も就労支援の視点やスキルを高めていくことや就労アセスメントに対する理解を深めていく必要があるため、学習会の機会があると良い。 ・就労移行支援事業所の専門性を高め、発揮できる環境が必要（勉強会を再検討） ・就労系障害福祉サービス事業所職員が就労支援の意識を持って支援を行うことや就労アセスメントのニーズを充足できる仕組みが維持できれば、就労移行支援事業所減少の影響を最小限にとどめることができるのでないか。	○就労系障害福祉サービス事業所の職員に対する学習会が必要		

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	部会で取り組んだこと	見えてきたこと	下半期の方針	豊岡市への提言
こども部会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもを育てる保護者同士の横のつながりを深める場が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・自助組織 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度選出した保護者代表(複数名)と部会員との相談の場を設けて、今年度の開催時期や内容について意見聴取 ・障害の垣根を超えた繋がりを目指したいが、障害別での悩みを共有したい思いもある。 ・自主組織として担うには荷が重く、専門機関の後押しが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と協同で、お話カフェの定期開催を継続していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○お話カフェの開催 日：11月7日(火) 時間：10：00～12：00 場所：立野庁舎 内容：保護者同士の悩みを打ち明けあえる居場所を作る 参加者：こどもの成長や発達に悩みのある豊岡市在住の保護者(年齢不問) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所で困ったケースを抱え込みやすい。 ・関係機関との連携や共有を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員のスキルアップとネットワーク作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援こども連絡会 平成29年度第1回こども連絡会 日：8月9日(水) 場所：豊岡健康福祉センター第1会議室 参加事業所：6事業所 10名 <ul style="list-style-type: none"> ・サポートファイルの現状について学習会 講師：社会福祉課、こども育成課職員 ・学校のない時(放課後や長期休暇等)の過ごし方についてグループワーク ・福祉サービスの現状、必要な資源などについて話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援をつなぐ大切さ(乳幼児期～成人期へ) <ul style="list-style-type: none"> ・サポートファイルの実際を知ることができた。 ・保護者と学校間のやり取りに限定せず、相談支援事業所やサービス提供事業所とも連携しながら、ライフステージに応じた縦横連携ができるよう、より具体的で継続的な支援ツールとして活用していく必要がある。 ○相談支援事業者同士のグループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・送迎なしでは福祉サービスや放課後児童クラブの利用が難しい場合がある。保護者も相談員も調整に苦慮していることが共有できた。 ・社会資源の質と量の実情について意見をまとめ、具体的な支援に繋げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回 こども連絡会を12月に予定 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者での情報の共有を行い、今後の児童の支援体制について検討できる機会を定期的に持ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者間で子どもの情報を共有できる架け橋として、サポートファイルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害児等支援連絡会議への意見聴取と協議 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第1回こども連絡会においてサポートファイルについて市担当課からの講義を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サポートファイルの周知 <ul style="list-style-type: none"> ・相談員への周知ができた。 ・サポートファイルのより効果的な活用方法について、利用者や相談支援事業所からの意見を交えながら、より具体的で継続的な支援ツールとして検討・活用していく必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次回の発達障害児等支援連絡会議へ部会の取り組みについて報告をする予定。 	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	下半期の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 （重度心身障害者（児）について検討するプロジェクトチーム）	<ul style="list-style-type: none"> 新生児（重心）の方がNICU(新生児集中治療室)から在宅へ戻るにあたり小児の訪問看護を受けている事業所も少ない等家族を支える仕組みが乏しいため、その後地域で生活する中で本人・家族が孤立しがちになり十分な支援を受けることが出来ていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> NICUから在宅への移行の際、退院前にチームを作り支援を整える等、家族を支える仕組み（マンパワーのみならず金銭面においても）があり、十分な情報の下、在宅での生活を安心して過ごすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状と課題について意見交換・情報共有 ○課題の絞り込みの為、障害福祉計画・障害児福祉計画策定に係るグループインタビュー（重心）への同席 ○今後地域へ出て行かれる特別支援学校在学者（重心）の方の人数について情報共有 ○グループインタビューで聞かせて頂いたご家族、ご本人が感じておられる課題を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院から在宅へ移行する際に十分な情報が入りにくい。また、当事者・家族を支える仕組みが不十分で家族が孤立しがちである。（家族が集まる場所がない） 	<ul style="list-style-type: none"> ○病院関係者、地域支援者を交えた研修会を実施することで現状の課題について共有する場を作る。 ○病院から地域へ移行される際、当事者・家族を支える仕組みについて検討する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、在学中や卒業後の重心の方の日中活動の場が少なく、利用を希望しても利用できない場合が多くある。 また、家族が緊急時に短期入所を利用したくても受け入れ可能な場所がなく本人・家族に大きな負担がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 在学中や卒業後に本人・家族が必要だけのサービスを受けることが出来る。 また家族の緊急時等（慶弔時や体調不良等）に短期入所を利用し、支援を受けることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上記取り組みと同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊岡市内に夜間も利用できる短期入所がない。利用するにしても遠方であり、本人、保護者とも負担がかかる。また地域行事や兄弟の用事、急な慶弔ごとでも参加することが難しい（兄弟へも影響）。保護者自身のレスパイトも必要。 ○日中活動の場が不足している。今後、特別支援学校等から地域生活へ移られる医療的ケアが必要な方が多くおられるが、地域の中に十分な受け皿がない。 ○医療的ケアが必要な方が地域で生活するにあたり利用できるサービスが少なく、生活に支障を来している。このような現状があまり知られていないと感じるので広く共有する必要がある。 ○短期入所事業新規参入事業者がいる理由（考えられるもの） <ul style="list-style-type: none"> ・短期入所事業所のみの運営では黒字経営が難しく他の事業の収益から赤字を補填する必要がある。 ・人材不足等で、受け入れ態勢が整わない。 ○重度訪問介護の利用を希望しても利用できない。（人材・単価等の課題があり、提供できる事業所が少ない） 	<ul style="list-style-type: none"> ○短期入所や日中活動等、重心の方（医療的ケアが必要な方）を地域で支えるために必要なサービスについての具体的なニーズ（事業所がないために利用をあきらめておられるケースも含め）を数値化する。 ○重心の方（医療的ケアが必要な方）がサービスを利用しやすい環境を作るため、必要な仕組みづくりについて具体的に検討する。 	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	るべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	下半期の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 (喀痰吸引について検討するプロジェクトチーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引等第三号研修受講後、継続的なフォローアップ研修の必要性がある。 ・第三号、指導者研修受講と事業実施する事業所が少ない。 (フォローアップが必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手技の研修を通して、支援員や介護職のスキルアップと意欲の向上を目指す。 ・看護、介護の連携の強化を図ることで、研修受講者や事業実施をする事業所が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「フォローアップ研修をするためのモデルとなる研修(以下、モデル研修)」を実施 日 にち：7月19日(水) 参 加 者：①第三号研修受講修了者（ヘルパー7名） ②指導者（看護師4名） ③プロジェクトチームメンバー 内 容：講義DVDでの学習 人形と吸引器を実際に使用した演習 グループワークで課題抽出 等 モ デル研修の様子を、動画で撮影した。 ○豊岡健康福祉事務所が開催した「介護職員による喀痰吸引等の実施をすすめるための研修会」で、喀痰吸引プロジェクトチームの取り組みを報告。 日 にち：9月8日(金) 参 加 者：15事業所 24名 ・喀痰吸引プロジェクトチームの取り組みを報告するとともに、モデル研修の様子を撮った動画を見ていだいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル研修を行ったことで、受講者であるヘルパーが手技的な不安を抱いていることがわかった。又、指導者側の看護師も、「ヘルパーがどういったことで困っているか」を知ることができた。そして、フォローアップ研修を開催するプロジェクトチームメンバーとしても予行練習を行うことができたので3者にとって意義のある研修となった。 ○ヘルパーの手技的な不安を解消するために、フォローアップ研修の継続開催の必要性を、モデル研修を行うことで再認識できた。 ○モデル研修では、指導者と受講者という立場で看護師とヘルパーが参加することで、身近な地域の中で職種を超えたつながりが生まれた。フォローアップ研修でも同じような効果が期待できる。自立支援協議会の中で多職種が集まってつながりが生まれるような研修を企画してみるのもいいのではないか。 ○喀痰吸引をヘルパーが行うことに利用者や家族が抵抗感を持つことが想定される。その抵抗感を緩和するために、看護師がバックアップしていることを知つてもらえるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フォローアップ研修の実施 日 にち：11月15日(水) 時 間：13:30～16:00 場 所：立野庁舎 多目的ホール 内 容：・手技に関わる基本講習 ・基本研修評価項目の手順に基づき演習 ○フォローアップ研修後、参加者の反響を受けて「広報活動をどう行っていくか」と「フォローアップ研修を今後どう持続させていくか」を検討する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所での事業実施に対する意識や理解が低い。 ・相談支援員、ケアマネージャー等の制度や事業に関する知識が不足している。 (広報活動が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活をする上で家族、看護師以外の医療行為のニーズと対象者の現状を知ることで、理解力が含まり、事業に対する意欲が高まる。 ・利用者、家族の相談に応する者が制度、事業をフローチャートや映像的に理解し、適切にサービス調整ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動は、取り組むことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談支援員やケアマネージャーは、どういったケースであれば、その社会資源を使えるのかがわかれれば、社会資源を活用してくれると思われる。広報活動をする際には、その社会資源の活用方法を具体的に伝えることを意識する。 ○モデル研修の様子を撮った動画を、広報活動でも活用すれば、相談支援員やケアマネージャー等にも、よりわかりやすい説明をできるのではないか。 ○自立支援協議会の活動の様子を撮った動画(今回のモデル研修も含めて)を、動画共有WEBサービス(YouTubeなど)で公開すれば一般市民に自立支援協議会の活動を知ってもらいややすくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動をどのように取り組むかを検討する。 	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状 と 課題	るべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	下半期の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 （住宅について検討するプロジェクトチーム）	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病院に長期入院をしている精神障害者の地域移行を進めるにあたり、退院先の住まいの設定が必要だが、住宅確保をするには、保証人問題、貸主の貸し渋りなど様々な壁がある。 これは、精神障害者だけでなく、他の障害者や生活困窮者、高齢者も同じ問題に直面する可能性があり、そうした状況の中で一支援者の支援だけではフォローすることは困難である。 	<p>【入居までの支援システムの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連帯保証人がいない人でも賃貸契約ができるよう、公的保証人制度などで保証人を立てられるようになる。 公営住宅の入居要件の緩和 入居しやすい民間賃貸住宅の情報提供のシステム <p>【入居後の支援システムの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居後の生活が安定して継続できるように入居者それぞれの支援体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の制度・サービスの確認 昨年度の入居支援に関するアンケートの分析 先進地域の取り組み確認 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の制度・サービスについて <ul style="list-style-type: none"> 現在、豊岡市では「居住サポート事業」を1事業所が担っていることになっているが位置づけは曖昧であり、支援を必要としている市内の障害者に対応するものとはなっていない。 また「ひょうごあんしん住宅ネット」「家賃債務保証制度」はあるものの、市内には協力店、利用実績がないことが分かった。 アンケートより <ul style="list-style-type: none"> 保証人問題。 公営住宅の入居要件が厳しい。 入居支援は相談員の経験とそこで培った不動産業者との関係性で何とか行っているような状況である。 入居後も安定して生活できるようなフォロー体制がないと、不動産業者や貸主も困ることがある。 先進地域の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> 公的保証人制度（出雲市） おかやま入居支援センターの入居支援・入居後の支援体制づくり（岡山市） 入居するまでの支援だけでなく、入居後の支援体制のシステムを作ることで、入居者はもちろん、不動産業者や貸主も安心感が得られ、よりスムーズな入居支援が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国にいくつかある先進的な取り組みをしている居住支援システムについて、さらに内容を検討し、豊岡市における支援のあり方のイメージを作る。 そして、それを実現するためには関係者や専門家による協議・検討の場が必要であるため、その提案もできるようにしたい。 	